



# ● としょかん探偵事務所 ●



さて、今回の依頼は…「<sup>とう</sup>頭”か“<sup>ひき</sup>匹”か？」

盲導犬の本を読んでいたら、犬を「1頭、2頭…」と数えていました。でも、ペットの本では「1匹、2匹…」と数えていて… どちらが正しいの？



## 《回答》

馬を“匹”で数えている用例が源氏物語や今昔物語集にあり、生き物を数えるのは“匹”だったようです。一方、「“頭”という数え方は、明治時代に入ってから欧米の動物の頭数を数える“head”を直訳したもので、比較的新しい数え方だと言われています。一般の人が大きな動物を1頭、2頭と使うようになったのは明治40年頃…」のようです。（『数え方の辞典』、『数え方もひとしお』）

「大きな犬は“頭”、小さな犬は“匹”…チワワは1匹、セントバーナードは1頭、では柴犬は？ “匹”と“頭”の境界線ははっきりしません。また仕事をする犬（警察犬・盲導犬など）は“頭”と数えます。」（『知ってるようで知らないものの数え方』）

マスコミではどう表記しているかというところ

「助数詞適用の基準…動物は「匹＝ひき」で数えるのを原則とする。…大型の獣類は「頭＝とう」で数えることもある。」ということです。（『朝日新聞の用語の手引 `05 - `06』）

まあ、一般的には

「…豚は“匹”で数えますが、“頭”でも数えます。犬も同様ですが、ふつう犬が1頭と言うと大型犬でしょう。“頭”は一般に人間なみの大きさか、それ以上の大きさの動物に使います。牛馬や虎のほかにも鯨などにも使いますが、猫やネズミを“頭”で数えたらおかしい…」というところでしょうか。（『日本語を知るための51題』）

余談ですが、犬型ロボットのAIBO（アイボ）はどう数えるかというところ、発売当初は“体”あるいは“台”“点”でしたが、発売後2年半経った2001年2月の新聞に“1匹、2匹”と数える記事が登場したそうです。（『数え方もひとしお』）

## 《引用、参考文献》

- ・『数え方の辞典』飯田朝子著 小学館
- ・『数え方もひとしお』飯田朝子著 小学館
- ・『知ってるようで知らないものの数え方』小松睦子&ことば探偵団著 幻冬舎コミックス
- ・『朝日新聞の用語の手引 `05 - `06』朝日新聞社
- ・『日本語を知るための51題』加藤重広、吉田朋彦著 研究社

## ★レファレンスサービス★

図書館では、ちょっとした疑問や、調べ方のコツなど、さまざまな質問について、皆様様が回答を得られるよう、図書館の資料を使ってお手伝いをしています。ぜひ、ご利用ください。